

外国籍小児と家族への支援：看護師へのインタビュー調査を通して

○岩山 達成(静岡赤十字病院), 稲岡 菜月(静岡済生会総合病院), 濱井 妙子(静岡県立大学)

I. はじめに

日本人看護師が外国籍患者をケアするうえでの困難や工夫、必要な能力は報告¹⁾されているが、外国籍小児とその家族のケアに関する研究はほとんどない。そこで本研究では、外国籍小児と家族への支援をするうえで看護師が行っている工夫や配慮を明らかにし、言語的・文化的違いに配慮した小児看護への示唆を得ることを目的とした。

II. 研究方法

2021年9月に小児専門病院の看護師5名を対象に半構造化インタビューを行った。録音データを逐語録にし、外国籍小児の看護に戸惑った・苦労したと感じた場面、支援する方法、支援する上で必要な能力について要約的内容分析を行い、コアカテゴリを【 】, カテゴリを< >, サブカテゴリを「 」で示した。静岡県立大学看護学部研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

III. 結果

対象者は30～50歳代で、女性、看護師経験年数は13～29年(中央値18年)であった。合計335のコードが抽出された。『戸惑った・苦労したと感じた場面』は111コードで、【言葉の壁から意思疎通が難しい】<自分の伝えたいことが伝わらない、相手の訴えが伝わりにくい><説明に対して相手は頷くが実際に理解できているか確認が難しい><情報が得られないためアセスメントが難しい>、【日本人との感覚や行動の違いに戸惑う】<日本には見られない主張や生活習慣行動の違いを感じる><日本人には見られない宗教上の違いを感じる>、【外国人家族に対して心配を感じる】<母親同士の共有もできないため孤立しやすい><外国人家族に対して経済的な心配がある>に分類された。『支援する方法』は178コードで、【言葉の壁に対する支援の方法】「あらゆる手段を使ってコミュニケーションを図る」「相手に合わせた対応を個別に実施する」「相手の理解を確認する」「情報収集のための工夫をする」「信頼関係を築くための密なコミュニケーションを図る」、【日本人との感覚や行動の違いに対する支援】「国籍に関係なく個別性の一つとしてケアを行う」「相手の生活習慣を考慮して柔軟に対応する」、【外国人家族を安心させるための支援】「孤立させないために看護師が他者からの支援を得る懸け橋となる」等に分類された。『支援する上で必要な能力』は46コードで【言葉の壁に対応する能力】<国籍に関わらず対応できるコミュニケーション能力><言葉の壁に工夫ができる能力>、【患者の価値を尊重したケアを行う能力】<外国籍小児と家族の価値観を尊重したケアを実施する><相手を積極的に知ろうとする能力>、【地域で孤立させないために行政や多職種につなぐ能力】であった。

IV. 結論

看護師は言葉の壁や文化的背景の違いに苦労や戸惑いを感じながら、異文化看護と小児看護に共通の能力を活用していたことが明らかになり、言語的・文化的な違いに配慮した看護を実践するためには、小児看護実践能力を向上させるとともに、多様な価値観に遭遇し工夫や配慮を繰り返すことで異文化看護の能力を進化させていくことが重要であることが示唆された。

V. 文献

- 1) 永田文子, 濱井妙子 (2015). 在日ブラジル人患者の看護経験からみたカルチュラルコンピテンスの検討. 国立病院看護研究学会誌, 11(1), 23-27.